

# 第一話：天国の算数 と 地獄の算数

生徒は、現在の算数が【地獄の算数】であることを知りません。  
現在の算数：無数の公式と無数の解法。 地獄への道  
新しい算数：1つの万能公式と1つの解法。 天国への道  
生徒は、この【天国の算数】の存在すら知らないのです。

天国の算数：

問題：(1個、10円) (15個、 円)

意味：1個 10円の品物を15個買うといくらになりますか？

解答：(1個、10円) × 15 = (15個、150円)..... 円 = 150円

意味：個数が15倍なら、代金も15倍になります。比例の法則です。

応用例：

：(2g, 5cm) ( g, 15cm) (10g, cm).....太さ一様のはりがね

：(2km, 5分) ( km, 15分) (10km, 時間).....速さ一定

：(2g, 5g) ( g, 15g) (10g, g).....濃度一定

：(高さ2cm, 底辺5cm) ( cm, 15cm) (10cm, cm).....相似形

：(分子2, 分母5) ( , 15) (10, ).....同じ大きさの分数

天国の算数：

(2, 5) × 3 = (6, 15)..... = 6

(2, 5) × 5 = (10, )..... = 25

これが から までの共通の解答式です。異なるのは単位だけです。  
原理は比例の法則です。詳しい説明は第二話で。

従来の公式は全て消滅します。

九九さえ知っていれば、低学年生にも解けます。

現在の算数 = 地獄の算数：

生徒は無数の公式と解法に苦しんでいます。

単位量の公式、速さの公式、濃度の公式。

単位が変わるごとに無数の公式が生まれます。

のように公式のない例も数多くあります。

いずれにしても、決まった解き方はありません。

生徒は公式や解き方を全て覚えなければならないのです。

救いのない【地獄の算数】が待っている訳です。

## 第二話：比例の法則と万能公式

公式は、法則ではありません。単なる技法に過ぎません。  
ですから、有害で無益なら使わないほうが賢明なのです。

新算数の世界：万能公式

問：(12g, 4cm) (60g, cm).....( )は比例するという意味です。

考え方：重さが5倍だから、長さも5倍になります。

答：(12g, 4cm) × 5 = (60g, 20cm)..... cm = 20cm

従来の算数の世界：無理な公式、無駄な公式

第一公式：重さ(g) ÷ 長さ(cm) = 1cmぶんの重さ..... $12 \div 4 = 3$

無単位式では、誰もウソに気づきません。

$20g \div 16cm$ .....常識的には、こんな割り算できません。

$12g \div 4cm = 6g \div 2cm = 3g \div 1cm$ .....これが真相です。

実際は、重さと長さを同じ数で割って簡単にしているに過ぎません。

第三公式：重さ(g) ÷ 1cmぶんの重さ = 長さ(cm)..... $60 \div 3 = 20$

これも、真っ赤なウソです。

$60\text{g} \div (3\text{g} \div 1\text{cm}) = 60\text{g} \div 3\text{g} \times 1\text{cm} = 20 \times 1\text{cm} = 20\text{cm} \dots \dots$ これが真相です。  
重さが20倍だから長さを20倍するという比例計算をしているのです。

公式2本の計算経路：  
第一公式      第三公式

(12g, 4cm) ( $\div 4$ ) (3g, 1cm) ( $\times 20$ ) (60g, 20cm)  
公式で解いても、結局は【比例の法則】なのです。

万能公式の計算経路：  
(12g, 4cm) ( $\times 5$ ) (60g, 20cm)  
1回の計算で済みます。

解法比較：  
万能公式は、公式ある問題、公式のない問題、いずれにも対応します。  
従来の公式が通用するのは、その単位だけです。  
これだけでも、どちらの算数が本物か、小学生にも分かります。

### 第三話：公式の真相(1)

異単位の公式で解いても、簡単にすると必ず【万能公式】になります。  
この理屈が分かったら、公式を使う生徒はいなくなります。

公式の真相：パック売りの卵で検証  
問：(50円, 3個) (   円, 15個).....パック売りです。

旧算数の世界：

第一公式：代金  $\div$  個数 = 1個のねだん.....パック売りなのに単価？  
第二公式：(1個のねだん)  $\times$  個数 = 代金  
(50円  $\div$  3個)  $\times$  15個.....異単位の割り算は計算不可能です。  
= 50円  $\div$  3個  $\times$  15個.....そこで、次のように計算順序を変えます。  
= 50円  $\times$  (15個  $\div$  3個).....同単位の割り算になり計算可能になります。  
= 50円  $\times$  5.....個数が5倍だから、代金も5倍。  
= 250円

万能公式：(50円, 3個)  $\times$  5 = (250円, 15個).....答 250円  
第一公式も第二公式も要らないのです。  
万能公式1本で済みます。計算もはるかに簡単です。

従来の公式のカラクリ：

第二公式は、第一公式を含んでいます。  
第二公式の計算を分析すると、異単位の割り算ができないので、同単位の割り算に直していることが分かります。  
計算の中で公式の無理(異単位の割り算)を修正しているのです。  
これを指摘する専門家がいません。  
ですから、馬鹿馬鹿しい公式指導が続くのです。  
反論なさるなら、論証してください。

公式で解いても、結局は万能公式に戻るのです。  
要するに、何個何円でも良いのですから、単価の公式は要らないのです。

それでも公式を使う理由があるのでしょうか？

## 第四話：公式の真相(2)

割合の公式(同単位)について検証します。

例題 4：

5打数に2安打の割合で打つ野球選手がいます。  
14安打を打つには、何打数を要しますか。打率は一定とします。

従来の算数：

第一公式：安打数 ÷ 打数 = 打率.....2本 ÷ 5本 = 0.4.....打率4割  
第三公式：安打数 ÷ 打率 = 打数.....14本 ÷ 0.4 = 35本  
これらの公式は間違っていないです。しかし、必要ないのです。

公式解の真相：分かり易くするために、単位を安打数と打数とします。

打数.....(打数 = 安打数 ÷ 打率)  
= 14安打 ÷ 0.4.....小数の割合では、真相はつかめません。  
= 14安打 ÷ (2安打 ÷ 5打数)  
= 14安打 ÷ 2安打 × 5打数.....安打数は7倍  
= 7 × 5打数.....打数を7倍  
= 35打数.....結局は万能公式と同じことになるのです。

万能公式：例題 4 の解答

問：(2安打、5打数) (14安打、打数).....安打数は7倍。  
答：(2安打、5打数) × 7 = (14安打、35打数)..... = 35  
単位を本数とせずに、意味の分かる単位がつけられます。

計算の無駄：

言葉の式では、打率を求め、次に打数を求めています。  
(5本、2本) (÷ 5本) (1、0.4) (× 35本) (35本、14本)  
万能公式では、直接に打数を求めます。  
(5本、2本) × 7 = (35本、14本)

打率を求めるだけ遠回りになります。打率は必要ないのです。  
従って、打率を使う第二公式も第三公式も要らないのです。

割合の公式には、食塩水の濃度や売買の歩合などがありますが、同様に  
万能公式で説明できます。従って、なかまの公式も要らないのです。

## 第五話：教科書の誤り

現場の先生方は、文科省の指示に従って教科書を教えます。  
生徒は、教科書を信じ、先生を信じています。  
従って、誰も誤りに気づかないのです。

例題 5：教科書の問題

4ℓのペンキで20㎡の板を塗れるとします。1ℓのペンキで何㎡の板を  
塗れますか。

教科書の説明：

教科書では、2本の線分図(ペンキ量と面積)を使っています。  
ペンキ量を4で割ったら、面積も4で割る説明をしています。

20 ÷ 4 = 5.....(1).....答 5㎡  
第一公式：面積 ÷ ペンキ量 = 1ℓで塗れる面積  
20 ÷ 4 = 5.....(2).....答 5㎡

教科書のウソ：

(1)式の後で、公式と(2)式を見れば、生徒は同じ意味と錯角します。

教科書がウソを教えてはいけません。

公式を教えるなら、次の様にしなければならないのです。

第一公式：面積÷ペンキ量 = 1dlで塗れる面積

( $20 \div 4 = 5 \div 1$ ).....(3)..... $5\text{m}^2 \div 1\text{dl}$ です。無単位でも1は省けません。

第二公式1dlで塗れる面積×ペンキ量 = 面積

( $5 \div 1$ )×1 = 5.....(4).....答  $5\text{m}^2$

学習指導要領も(3)(4)式を示していません。

ですから、教科書を作成する専門家たちもこれに従うのです。

(1)で答が出ているのに、なぜ公式を示すのでしょうか？

説明するときに単位をつけるのは数学や理科の常識です。

ただの計算なら無単位式でも構わないのです。

解答： $(4\text{dl}, 20\text{m}^2) \div 4 = (1\text{dl}, 5\text{m}^2)$ .....万能公式

恐ろしいのは、誤りを指摘されても訂正しないことです。

関係者は、未だに反論なしに【黙秘】を続けています。

建築問題、食料問題などの【隠ぺい】と同じことです。

それを許すマスコミにも責任があると思います。

名前

メールアドレス

内容

メール投稿

---

7938

4

2

---

---